社会貢献活動

「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、自発的活動を促す仕組みをつくり、活動を推進しています

社会貢献活動の考え方・指針

住文化の向上

- 住まいづくりの教室「すまい塾」の開催
- 「view point」の発行
- 出版事業を展開「株式会社住まいの図書館」
- 「生活リテラシーブック」の発刊
- 「住まいの図書館」の運営
- 「住み継がれる家の価値」発行への協力

次世代育成

- 総合住宅研究所の教育貢献活動
- 各地の教育貢献活動
- 「住空間ecoデザインコンペティション」開催
- 新梅田シティ「新・里山」での教育貢献
- 体験教育機会を提供する「住まいの夢工場」
- インターンシップの実施
- 環境教育プログラムの実施

環境配慮

- 「企業の森」制度への参加
- 「キャンドルナイト」の実施
- 埼玉県「みどりと川の再生」活動に参加
- 清掃活動
- 「5本の樹」計画を生かした地域貢献活動

防犯・防災の啓発活動

- 防災意識の啓発
- 防犯教育と意識啓発
- 災害時における地域との協働

障がい者の自立支援

- セルプ製品の販売協力、ノベルティ採用
- 障害者週間行事への参画

NPO・NGOとの協働

- NPO・NGOとの協働
- キッズデザイン協議会
- 社会起業家をめざす若者の支援—「edge」への協賛
- 西山夘三記念すまい・まちづくり文庫
  ～住文化の継承と発展への協力

従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

チャリティ・義援金・ボランティア

- 災害義援金
- チャリティフリーマーケットの実施
- こどもの日チャリティイベントへの協力
- 各地へ広がる収集ボランティア
- 地域イベントの支援
- 多彩な国際交流イベントの開催

文化財の保護

社会貢献活動社長表彰

社会貢献活動の考え方・指針

「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、自発的活動を促す仕組みをつくり、活動を推進しています。

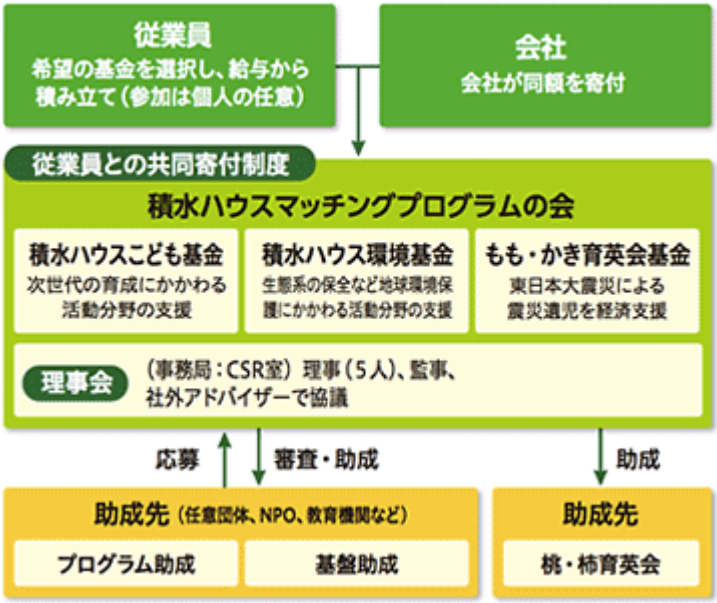
人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む当社は、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みづくりや、地域に根差した活動を続けています。

社会的活動を担うNPOを支援する「積水ハウスマッチングプログラム」

従業員との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」（会員数約2200人）を2006年度から開始。NPOなどの社会的活動を担う団体を支援しています。このプログラムは、従業員が給与から希望する金額（1口100円）を積み立て、それに当社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「積水ハウスこども基金」「積水ハウス環境基金」の2基金は、会員代表で構成する理事会で支援先を決定します。

2011年度は29団体に1566万円を助成。また、東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」（実行委員長：建築家安藤忠雄氏）の趣旨に賛同し、三つ目の基金として「もも・かき育英会基金」を設置しました。「もも・かき育英会基金」は、震災遺児を10年間にわたり経済支援していきます。

「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



2011年の助成先

プログラム助成 15団体1291万円	基盤助成 14団体275万円
●こども基金 7団体708万円	●こども基金 8団体155万円
●環境基金 8団体583万円	●環境基金 6団体120万円

プログラムの助成団体

こども基金	環境基金
●NPO法人 ADRA Japan ●NPO法人 アレルギー支援ネットワーク ●NPO法人 国境なき医師団日本 ●NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス ●NPO法人 難民を助ける会 ●NPO法人 日本グッド・トイ委員会 ●にほんごサポートひまわり会	●大阪府立園芸高等学校 ●かしま環境ネットワーク ●NPO法人 グラウンドワーク三島 ●NPO法人 環境合スコーレ ●NPO法人 自然環境復元協会 ●NPO法人 白神山地を守る会 ●NPO法人 生態工房 ●NPO法人 日本国際ボランティアセンター

関連項目

- 住文化の向上(P.434)
- 環境配慮(P.454)
- NPO・NGOとの協働(P.470)
- 次世代育成(P.441)
- 障がい者の自立支援(P.466)
- 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(P.476)

住まいづくりの教室「すまい塾」の開催

体験や実例見学ができる「こだわり講座」、プロの講師が講演する「公開講座」にはこれまでに1万人以上が参加しています

当社では、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に、住まいと暮らしについて学習する「すまい塾」を開設しています。2012年1月までに、「こだわり講座」に685人、「公開講座」に1万5247人の方が参加しています。

「すまい塾」は1992年、総合住宅研究所にある「納得工房」でスタートしました。納得工房は住まいに関するあらゆる体験を通じて「理想の住まい」を発見できる施設。自分にふさわしい住まいのイメージを、「知る」「わかる」「納得する」というプロセスを通じて組み立てていくことができます。「すまい塾」には「こだわり講座」と「公開講座」の2つがあり、関心をお持ちの方はどなたでも受講していただくことができます。

「こだわり講座」には、体験学習や実例見学を通じて住まいに関する基礎知識を学ぶ「基礎コース」(全8回／4カ月、受講料:5000円)と、基礎コースで得た知識を踏まえて「わが家ならではの理想の住まい」を探るプランニング体験にチャレンジする「専科コース」(全3回／2カ月、受講料:3000円)があります。講師は各分野の専門家である当社従業員。「公開講座」は、総合住宅研究所 納得工房で毎月1度開講する無料の市民講座。住まいと暮らしにかかわりのある多彩なテーマを取り上げ、「その道のプロ」である講師を社外から招き、講演形式で実施しています。また、過去の講義録をホームページからご覧いただくこともできます。

関連項目

- 「すまい塾」ホームページ (受講をお申し込みいただくことができます)
- 「すまい塾」こだわり講座
- 「すまい塾」公開講座
- 過去の公開講座・誌上公開講座(講義録)をご覧いただくことができます

多くの方に受講していただくため、事業所(支店)やインターネットでも「すまい塾」を開催しています

また、納得工房で開催している「こだわり講座」をアレンジした「すまい塾」を全国の事業所で展開しています。

さらに、好きな時に、繰り返し学習できるWebならではのメリットを生かし、自分のペースで学んでいただくことができるインターネットを活用した「Webすまい塾」もご用意しています。2011年度は381件のお申し込みをいただき、開設(2008年4月)から2012年1月までの累計申し込み数が2168件となりました。「Webすまい塾」は、住まいづくりの楽しさを多くの皆様に知っていただくことを目指して、全6レッスンと3つのスペシャルレッスンから構成される充実したカリキュラムで、登録・受講料は無料です。ご自身の理解度について課題に取り組むことでチェックすることもできます。

■「Webすまい塾」のカリキュラム

LESSON1	入門編
LESSON2	キッチン編
LESSON3	性能・構造編
LESSON4	収納編
LESSON5	インテリア編
LESSON6	ファイナンシャルプラン編
Special Lesson	自然環境・エクステリア編～日本の樹を住まいに～
Special Lesson	自然とつながる涼しい暮らし
Special Lesson	子どものためのインテリアレッスン

関連項目

「Webすまい塾」修了生インタビュー

「生活リテラシーブック」の発刊

住まいに関するノウハウを、広く社会の皆様に提供するため、「自分流の豊かさを見つける才能」を基本テーマとする、当社オリジナルの「生活リテラシーブック」を発刊しています。

「防災」「眠り」「菜園」「ペット」など独自のテーマで、生活リテラシーの向上を追求しています

OECD（経済協力開発機構）の拡大した定義によれば、「リテラシー」とは「生きるために必要な知識・技能・教養」。当社はこれに“生活”というキーワードを加え「生活リテラシー」という新しい概念をつくりました。この言葉には、「暮らしと住まいをより豊かにする“力”“知識”“教養”“ノウハウ”」などの意味を込めています。

「生活リテラシーブック」は、これまでに「防災」「眠り」「菜園」「ペット」「こどもの生きる力」の5号を発刊しています。

life hazard「住まいと暮らしの防災」

good sleep「すこやかな眠り」

kitchen gardening「菜園のある暮らし」

living with pet「生きものと暮らす」

子どもの生きる力を育む家

「view point」の発行

総合住宅研究所（京都府木津川市）においてこれまで実施してきた人と暮らしの視点から住まいのあり方について、多彩な角度からの調査・研究によって得られた成果をもとに、住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート「view point」を発行しています。

vol.01「ペットとの暮らしと住まい」～飼い主とペットの関係～
vol.02「“子育ち”設計レポート」～子どもの学びを考えた居どころ提案～
vol.03「イマドキの共働き家庭」～スムーズ家事で家族時間と自分時間～
vol.04「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～
vol.05「空気環境に配慮した暮らし」～“空気の質”にこだわる～

「住まいの図書館」の運営

当社総合住宅研究所（京都府木津川市）にある「住まいの図書館」は、住まいや暮らしに関する書籍や雑誌を多数収集し、住文化を発信する拠点となっています。蔵書は1万冊を超え、家を建てるときに役立つ実用本から、住まいの歴史、インテリアデザイン、ユニバーサルデザイン関連の書籍、建築家の作品集やエッセイに至るまで幅広く取り揃えています。当社が開校する「すまい塾」塾生の皆様を中心にご利用いただいています。

住まいの図書館（総合住宅研究所）

出版事業を展開「株式会社住まいの図書館」

「株式会社住まいの図書館」は、出版活動を主な事業目的として1986年2月に設立されました。成熟期を迎えつつあった住宅産業がモノ中心の事業活動から文化面へのアプローチを始めようとしていた時期に、時代を先取りする企業活動の新しい展開としてスタートさせたものです。

「住まい学大系」第1期100巻を刊行し、2006年から第2期を発刊しています

設立時より「住まい学大系」を刊行し、1999年までに第1期100巻を発刊しました(「住まいの図書館出版局」発行)。生活者の柔軟な発想と、建築家や研究者の成果が交差する読み物として多くの読者に親しまれ、いずれも版を重ねています。

2003年、全巻の編集長を務めた植田実氏が建築学会賞文化賞を受賞したことを機に、出版再開を望む多くの声が寄せられ、2006年からは「住まい学大系」第2期の刊行を開始しました。第101巻として、建築学界の第一人者である鈴木成文氏の「五一C白書 私の建築計画学戦後史」を2006年11月に発刊し、2009年3月には第102巻「中廊下の住宅～明治大正昭和の暮らしを間取りに読む」を発刊しました。

長年、当社が蓄積してきたさまざまな研究成果を中心に、関連分野で活躍する多くの識者・研究者の協力を得ながら、今後も出版事業を通じて情報交流・情報発信の役割を担っていきます。

関連項目

- 「住まい学大系」既刊案内(1～100巻)
- 「住まい学大系」既刊案内(101巻)
- 「住まい学大系」既刊案内(102巻)

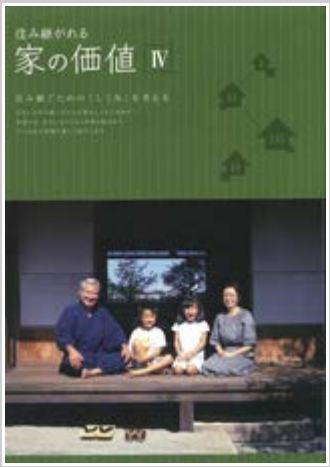
「住み継がれる家の価値」発行への協力

（財）勤労者住宅協会が発行する委託を受け、住宅の長寿命化に関する研究・知見をベースにして、長期優良住宅を見据えた生活者の啓発を目的とした冊子「住み継がれる家の価値」の企画・編集・執筆に協力しました。

2011年度の取り組み：第4号では「住まいを住み継ぐ」視点から多様な事例を紹介

2011年3月発行の第4号では、「住まいを住み継ぐために必要な仕組みは何か」、住まいを取り巻く多様な視点から、その方法を事例を通して紹介しています。また、東日本大震災を受けて、特別付録「防災ハンドブック」を掲載いたしました。

本冊子は、（財）勤労者住宅協会より、所轄の国土交通省他、（社）関西経済連合会会員企業、大学等に無料配布されており、公的機関および住まいに関心がある生活者全般に対する啓発活動の一環を担っています。当社はこれまでに発行された1～3号の発行にも協力しています。



「長寿命住宅シンポジウム」の開催にも協力

冊子発行後には（財）勤労者住宅協会主催で「長寿命住宅シンポジウム」を開催し、住宅が住み継がれる社会の大切さや基盤となる住宅のあり方について、参加者に理解を深めていただいており、当社の総合住宅研究所員も講演、パネルディスカッションのパネリストとして協力しています。

住まいを住み継いでいくための仕組みや性能などの実践的ノウハウを事例紹介やパネルディスカッションを通じて発信

■■■■ プログラム ■■■■

13:30 開　会

13:35 基調講演
「住み継がれる家の価値 ～しくみの価値の視点から」
―― 高田光雄 氏（京都大学大学院 工学研究科 教授）

14:15 特別講演
「住み継ぐために、必要なもの」
―― 弘本由香里氏（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所 特任研究員）

14:55 テーマ別講義 ――冊子掲載内容の紹介
「住み継がれる家の価値Ⅳ」
―― 大島祥子氏（スーク創生事務所 代表）

特集「住まいの安心・安全」
―― 吉田　健氏（積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 技術研究室）

15:25 休憩（5分）

15:30 パネルディスカッション
「住み継げる住まいとは？ ～入門から裏技まで教えます」
―― コーディネーター　：大島祥子氏
パネリスト　：中村孝之氏
（積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 技術研究室）
弘本由香里氏
高田光雄氏
※パネルディスカッションの最後に会場からの質問時間を若干設ける予定です。

16:30 閉　会

「長寿命住宅シンポジウム」プログラム

総合住宅研究所の教育貢献活動

当社総合住宅研究所（京都府木津川市）内にある「納得工房」は、人間性豊かな住まいと住環境をつくるため、生活者とともに体験・検証する「生活体験学習基地」として1990年に開設し、来館者の累計は70万人を超えました。その半数以上は、住まいづくりを体験的に学ぶために来館される方々ですが、五感をフルに使って学べる「納得工房」の大きな特長を生かして、さまざまな教育体験の場としても貢献しています。

教育体験を受け入れる総合住宅研究所では、職場体験や総合学習、あるいは専門知識の習得など教育機関のさまざまな要望に応えるプログラムを用意しています。小学生から大学生、専門学校生まで幅広い層を対象とし、建築だけではなく生活や福祉関連の学習施設としても活用されています。宿泊施設があるため遠方からの参加も可能です。

学習プログラムの一つ「住まい体験学習」は、建築・生活科学・デザイン系の大学生を対象とし、学校種別による推奨コースを設定したもので、納得工房スタッフが講師を務めています。近年、特に受講者の関心が高いのが、生涯住宅ゾーンの「GARO※体験」です。拘束器具や車いすなどを使用して、障がいや老化などの身体状態を擬似体験できるため、福祉や医療を学ぶ学生が増加し、研究や調査にも有効に活用いただいています。

※GARO：「G：ガリバー・・・寸法変化」「A：（不思議の国の）アリス・・・ 環境変化」「RO：ロボット・・・身体拘束」を組み合わせた言葉。「我老（がろう）＝我れ老いる」の意味も兼ねています。一般老化、妊婦、リウマチなどの状態を、拘束器具を使って体験し（GARO体験）することで、健康なときには感じられない住まいの問題点を実感できます。

建築・生活科学・デザイン系の大学生が対象の「住まい体験学習」

GARO体験の様子

建物の構造についても学びます

体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」

住まいの安心と安全、ユニバーサルデザイン、環境、エネルギーなどを学習テーマにしています

地震や火事などの疑似体験を通して、納得のいく住まいづくりを考えていただける体験型施設「住まいの夢工場」を全国6カ所に設置し、学生の体験学習を受け入れています。2011年度は1691人の学生の体験学習をして受け入れました。

「住まいの夢工場」では、防災・防犯など、住まいの安全と安心、ユニバーサルデザイン、快適な暮らしと環境、エネルギーなどのテーマを掲げ、楽しみながら体験学習ができるよう、さまざまな工夫をしています。小・中学生をはじめ、学生たちが「住生活」について学ぶ体験学習の場としても活用されています。そして、当社が提供する体験学習プログラムの一つに、震度7クラスの揺れを再現する地震体験があります。この体験を子どもたちが家族に話すことで、各家庭の防災意識が向上するなどの波及効果もあります。

「住まいの夢工場」での体験が、将来的に災害に強い住まいやまちづくりにつながることを願い、今後も多くの学生たちの体験学習の場として活用していただきたいと考えています。

全国の住まいの夢工場

1 東北 住まいの夢工場	宮城県加美郡色麻町大原8番地
2 関東 住まいの夢工場	茨城県古河市北利根2
3 静岡 住まいの夢工場	静岡県掛川市中1100
4 北信越 住まいの夢工場	富山県射水市有磯2-27-3
5 関西 住まいの夢工場	京都府木津川市兜台6-6-4
6 山口 住まいの夢工場	山口県山口市鋳銭司5000

関連項目

- 「住まいの夢工場」ホームページ
- 「住まいの夢工場」体験レポート
- 「住まいの夢工場」 見学をお申し込みいただけます

これまでの取り組み

	見学者数(学生)
2007年度	3,220人
2008年度	2,022人
2009年度	2,087人
2010年度	2,213人
2011年度	1,691人

各地の教育貢献活動

「住まいづくり」という当社の本業を生かし、小学校から大学まで幅広い層の教育機関と連携して、全国各地で体験学習をはじめ、環境にかかわる学習や、設計やインテリアに関係する講義を中心に、全国の事業所やグループ会社で職場体験の受け入れや出張授業を実施しています。

今後も積極的に学生の受け入れを行い、次世代育成のための教育貢献活動に取り組んでいきます。

インターンシップの実施

当社は、次世代の職業人育成を支援することも企業にとって重要な社会的責任であると考え、大学生のインターンシップを実施しています。

2011年度の取り組み:「住空間創造体験講座」を開催

2011年度は建築系専攻学生を対象に「住空間創造体験講座」(7日間)を実施し、31人の学生を受け入れました。7日間のインターンシップでは、住宅建築技術が体感できる総合住宅研究所(京都府木津川市)の見学、事業の最前線である支店での住まいづくりプロセス体験のほか、先輩社員との交流機会もありました。

総合住宅研究所で、車いすを使用して障がいや老化などの身体状態を擬似体験

「住空間ecoデザインコンペティション」開催

学生と共に住空間デザインを考える産学協働の商品企画プロジェクト「住空間ecoデザインコンペティション」を2005年度より実施しています。住空間における環境意識を高めて、さらに質を向上させた商品を企画するとともに、産学の連携強化、学生間の交流促進、若きデザイナーの育成を主な目的として、関東と関西の2会場でコンペを実施しています。

2011年度は全国50大学187作品の応募

2011年度は、“気候変動”という状況の下、「エネルギー」「水」「食」「3R」「交通」「生物多様性」などの課題を学ぶと共に、「家族のコミュニケーション空間」「近隣のコミュニケーション空間」「自然と共生する仕掛け」の3つのキーワードを重視した「住空間」デザイン提案を募集したところ、全国50大学から187作品の応募がありました。

3次審査審査会場

最優秀作品は「都市の夢柱化」

9月の2次審査を通過した作品が11月に最終審査（原寸大プレゼンテーション）を終え、最優秀賞1作品、優秀賞3作品、入賞5作品、奨励賞1作品が決定しました。

当プロジェクトは実寸大模型を制作監修できる実践的内容で、学生の関心は非常に高く、好評です。東西の学生が審査会で交流したり、コンペティションを経験・卒業した先輩が後輩にアドバイスしたり、参加者同士がかかわりを持てる場として大いに活用できます。今後、産学協働の輪をさらに強く大きなものにしていきたいと考えます。

最優秀賞「都市の夢柱化」
日本大学大学院
渋谷舞、三角奈津紀、酒井誠

関連項目

テーマ、審査委員、スケジュール、過去の受賞作品などをご覧いただけます
「住空間ecoデザインコンペティション」ホームページ

環境教育プログラムの実施

子どもたちが環境について楽しく学べる機会を提供しています

地球温暖化防止や環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。そこで、当社は「エコ・ファースト企業」として環境大臣と取り交わした3つの約束(1)CO_2 排出量削減、(2)生態系ネットワークの復活、(3)資源循環の取り組みをテーマとして、暮らしの中でできる省エネや自然環境保全、資源の有効利用の大切さを「楽しく学ぶ」3つの体験型学習プログラムを実施しています。2011年度は、地球温暖化と暮らしの関わりを学ぶ「いえコロジー」 セミナーを50回、生態系や在来種・外来種問題を考える「Dr. フォレストからの手紙」の出張授業を8回(479人)、教員研修を2回(30人)実施しました。

地球温暖化と暮らしの関わりを学ぶ キャプテンアースの「いえコロジー」

実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしの関わりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気付き」や「発見」の楽しさから“理科離れ”を解消していくプログラムです。

45分コースの例 ＜暮らしの省エネ・断熱性能について＞

講義（10分）

- 概要、趣旨説明
  →パワーポイントを投影、子どもたちに質問を投げかけながら、身近な例をあげ「エコ」or「エコじゃない」について考える

実験（25分）

- 断熱性能の実験①（10分）
  →放射温度計の使い方を説明。ポットのお湯と表面温度を測り「断熱性能」について考える。
- 断熱性能の実験②（15分）
  →住宅に使われている部材とドライアイスを使い、温度変化を追求しながら熱伝導について学ぶ。

まとめ（10分）

- 暮らしの中で「断熱性能」を活かした例を紹介
- 実験②で使用した部材は住宅のどこの部分で使われているかを説明。断熱性能が優れた部材を利用する事で「エコ」な暮らしができることを理解する。
- キャプテンアースとの約束
  →今日から「エコ」な暮らしをするため、自分に何ができるのか、キャプテンアースに約束（発表）する。

授業風景

赤外線サーモグラフィカメラを用いた授業は、「断熱性能」に対する子どもたちの理解を一層深めます。

＜お問い合わせ先＞
コーポレート・コミュニケーション部CSR室
TEL：06－6440－3440 E－mail：csr@sekisuihouse.co.jp

生態系や在来種・外来種問題を考える「Dr. フォレストからの手紙」

校庭などの身近な自然をテーマに、緑の専門家（Dr. フォレスト）から出されたミッションをクリアする中で、生態系や在来種・外来種問題を考え、そこで得た新しい知識や視点・考え方をこれからの行動につなげることを目的としたプログラムです。2007年には、第2回キッズデザイン賞（コミュニケーションデザイン部門）（主催：NPO法人キッズデザイン協議会）を受賞しています。教師が自由にアレンジすることのできる教材提供（教材データー式のダウンロード）と緑の専門家（Dr.フォレスト）が学校にやってくる出張授業（講師派遣）の2種類をご用意しています。また、本プログラムをベースにした教員研修（教育委員会、教科研究会などで主催する研修会への講師派遣）も実施しています。

室内で、フィールドで「Dr. フォレスト」から出されたミッションを解決しながら、楽しく生態系について学ぶことができるプログラムです。

	教材提供	出張授業	教員研修
	“体験思考型”環境教育プログラムを無償でダウンロードできます。	緑の専門家が“体験思考型”環境教育の出張授業を無償で実施致します。	教師を対象に、授業プログラムを体験する研修を無償で実施致します。
内容	授業プログラム教材一式提供	出張授業プログラム・講師派遣	授業プログラム教材一式提供
対象	小学校4～6年生 （クラス単位での実施） ※教材のアレンジにより中学校での実施も可能	小学校4～6年生 （クラス単位または合同での実施）	・教育委員会・研修センターなどで研修の企画または講師を担当される方 ・各教育委員会が取りまとめる現役の教員
詳細	click	click	click

＜お問い合わせ先＞
環境推進部 TEL：06－6440－3047

資源そのものやゴミ分別の大切さを学ぶ「リサイクラー長官に学ぶトレジャーハントツアー」（施設見学版）、「おうちのリサイクルのおはなし」（出張授業版）

ゴミの不法投棄問題等について理解を深めた後、住宅建築で出たゴミを直接触り、それがどのように、どのようなものにリサイクルされるのかを学び、資源そのものやゴミの分別の大切さを学びます。

＜お問い合わせ先＞
（施設見学型）関東工場 総務部 TEL：0280-92-1531（施設場所：茨城県古河市）
（出張授業型）環境推進部 TEL：06-6440-3047

これまでの実績

	「いえコロジー」セミナー	Dr.フォレストからの手紙	リサイクル
2008年度	43回	出張授業：10回（612人） 教員研修：9回（355人）	－
2009年度	39回	出張授業：17回（1,214人） 教員研修：4回（180人）	施設見学型：4回
2010年度	73回	出張授業：20回（1,071人） 教員研修：3回（67人）	施設見学型：1回（39人） 出張授業型：1回（116人）

新梅田シティ「新・里山」での教育貢献

2006年7月に本社がある新梅田シティ（大阪市北区）の公開空地内に、「5本の樹」計画の考え方を取り入れつくられた約8000m^{2}からなる「新・里山」では、近隣の幼稚園、小学校と連携して、当社従業員が講師を務め、体験学習を実施しています。2011年度は、小学生67人、幼稚園児39人が活動に参加しました。

また、オフィスワーカーによるボランティア活動も活発に行われています。新梅田シティで働くオフィスワーカーによるボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」では、2011年度には15回の活動を実施、延べ178人が参加しました。新たに勤務前に活動を実施する「朝活」も実施するなどの工夫も取り入れました。

「新・里山」全体図

2011年度の取り組み

都会の真ん中で実施する農業体験学習に、小学生67人、幼稚園児39人が参加

地元の幼稚園や、小学校の総合学習授業の場として、当社従業員が講師を務める、無農薬による農業体験学習を2007年度から実施しています。2011年度は、大阪市立大淀小学校5年生67人が、田植えや除草作業、稲刈り、足踏み式脱穀機や唐箕（とうみ）を使った脱穀作業など機械に頼らない昔ながらの米づくりを実施しました。また、大阪市立中大淀幼稚園の園児39人と保護者はサツマイモの植え付けとイモ掘りを体験しました。

中大淀幼稚園児によるサツマイモ植え（6月）

大淀小学校5年生による田植え（6月）

6月に植えた稲の刈り取り（10月）

オフィスワーカーによるボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」では「朝活」を実施

2006年に新梅田シティで働く人々やその家族でボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」を結成。米づくりと野菜の栽培・収穫の農業体験や自然観察会、また雑木林の下草刈りなど里山保全のボランティア活動をしています。2011年度は新たに「朝活」も実施し、一人でも多くのオフィスワーカーが参加しやすい企画を実施し、15回178人が活動に参加しました。

仕事前に玉ねぎを収穫（5月）

これまでの取り組み

	小学生による 「米づくり体験学習」	幼稚園児による 「サツマイモの栽培と野菜の生長観察」	オフィスワーカーによる ボランティア活動
2007年度	52人	28人	10回・232人
2008年度	69人	19人	11回・234人
2009年度	62人	26人	6回・104人
2010年度	53人	40人	4回・34人
2011年度	67人	39人	15回・178人

社外からの評価

2010年	ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会「銅賞」 （主催：環境省）
2010年	企業フィランソロピー大賞 特別賞「自然共創賞」 （主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会主催）

関連項目

新梅田シティ「新・里山」ホームページ

「企業の森」制度への参加

「5本の樹」計画を社会貢献活動でも実践

「里山」をお手本とし、各地の気候風土に適した自生種・在来種を中心とした植栽を通じて、生態系保全につながる「5本の樹」計画を、社会貢献活動でも実践しています。

和歌山県「積水ハウスの森」

当社は、和歌山県が実施する「企業の森」制度※を活用した森林保全活動に取り組んでいます。世界遺産・熊野古道に近い田辺市中辺路に「積水ハウスの森」と名付けた約2.6ヘクタールの森林を10年間の予定で借り受け、2006年4月から年に2回、春と秋に植樹、下草刈りなどを実施しています。2011年度は、3月に約70名が参加し、活動を実施しました。春には毎年、植栽を実施していますが、今回初めての試みとして「パッチ植栽」を実施しました。これは、鹿などの食害から苗木を守るために、一定の広さの網を張り、その中に植栽をするという方法で、今後も継続実施する予定です。秋は、台風の影響で実施を見合わせました。2011年度末までに計11回活動し、延べ参加人数は1107人となっています。

鹿などの食害から苗木を守るために、一定の広さの網を張り、その中に植栽します。

当社は、「里山」をお手本として自生種・在来種を中心に植栽する庭づくり「5本の樹」計画を推進していますが、和歌山県「積水ハウスの森」では、この「5本の樹」計画の趣旨に沿った広葉樹（コナラ、ケヤキ、ヤマザクラ、クヌギ等）を植樹しています。活動にあたっては、現地森林組合の方々の指導の下、春は補植、秋は下草刈りを中心に活動を実施しています。また、さまざまなレクリエーションも企画し、地域とのコミュニケーションを図っています。今後も、下草刈りや補植などの森林整備活動、また従業員やその家族が参加する自然体験（稲作や観察会）などの活動を一層推進し、地域との交流も拡大していきます。

※「企業の森」制度：企業が地元の森林所有者から土地を借り、植樹や下草刈りに参加することで森林保全を支援する制度。輸入木材に押されて利用が減った結果、手入れが行き届かずに荒れたまま放置されている地域の森林を保全することを目的としている。近年、各地の自治体で実施され、特に和歌山県では、県がコーディネートして積極的に推進。日常的な管理を地域の森林組合に委託することで、地域活性化や雇用支援にもつながる取り組みとして注目される。

参加人数

年度	2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度		2011年度
実施月	9月	4月	9月	4月	10月	4月	10月	3月	10月	3月	3月
参加人数	112人	120人	100人	85人	88人	83人	165人	102人	79人	103人	70人

青森県「企業の森」活動

東北営業本部では、青森県と「森林づくり協定」を結び、「企業の森」活動を通じて森林の保全活動に努める取り組みを実施しています。青森県五所川原市にあるカラマツ伐採跡地1.37haの荒地に、ブナ・ヒバ・ケヤキ・ヤマザクラを植樹し、下草刈り、追加植樹等の活動を2014年までの5年間実施します。2011年度は、9月24日に、オーナー様、協力会社従業員様、当社従業員 計93名で、オオヤマザクラ、ヒバを約500本植樹いたしました。その他にも、NPO法人白神山地を守る会が実施する植樹活動やシンポジウムにも参加しています。

今後も、下草刈りや補植などの森林整備活動、また従業員やその家族が参加する自然体験（稲作や観察会）などの活動を一層推進し、地域との交流も拡大していきます。

オーナー様や協力会社の方も一緒に活動を実施しています。

年度	2010年度		2011年度
実施月	9月	10月	9月
参加人数	170人	60人	93人

清掃活動

全国の事業所・工場が地域と協力し、清掃活動を実施

当社グループでは、全国の事業所や工場において、従業員だけでなく家族や取引先にも呼びかけて、事業所周辺、イベント会場などで、清掃活動に取り組んでおり、2011年度も各地で継続実施しました。

静岡工場、湘南支店は海岸清掃活動に参加、埼玉西シャーウッド住宅支店では、事務所のある川越市内で清掃活動と、市民の皆さんに町の美化を呼びかけました。その他、中部、関西、四国、九州など日本全国で同様の清掃活動が多数実施されています。

2012年度も、このような清掃活動を各地の事業所や工場で実施します。

2011年で10回目となる掛川市海岸清掃活動に、社員、家族300人以上が参加（静岡工場）

活動ルートを確認し、川越環境ネットワークの方々と一緒に川越市内を清掃
（埼玉西シャーウッド住宅支店）

梅田スカイビル周辺でも月2回の清掃活動を実施
（関西第一営業本部、関西シャーメゾン事業本部、本社他）

「キャンドルナイト」の実施

環境省からの呼びかけにより、ライトアップ施設や家庭の電気を消灯する「キャンドルナイト」イベントを2006年より実施しています。このイベントは、オフィス活動においてもCO_2 削減に取り組む積極的な姿勢を社会に示す意味を持ち、キャンドルの灯りの下でテレビを消して家族や友人と語り合う時間を持つ「つながり」を再認識する機会となります。当社では、本イベントに事業活動の意義とも重なる大切な意味があると考え、工場・オフィス、展示場等の事業所、社員とその家族による参加、また、お客様やお取引き先様へ参加を呼びかけています。

グランドメゾンでのキャンドルナイト

積水ハウスが分譲するマンション、グランドメゾンでは、「絆」への想いを新たに、一層強く、優しくつながっていくコミュニティを大切にするイベントの一つとして、キャンドルナイトを実施しています。キャンドルナイトの趣旨を活かしつつ、9月の晩にご近所の方や友人が集い、電灯を消してキャンドルを灯し、CO_2 削減を実践すると共に、同じマンションの住民の方々が挨拶を交わし、小さいながらも、身近な人々とのつながりを実感できるイベントとして、自然と開催されるようになってきています。住民の方々は、コミュニケーションとふれあいの喜びを感じるきっかけの場と感じられています。

「グランドメゾン西九条BIO」でのキャンドルナイト

「グランドメゾン伊丹池尻リテラシィ」でのキャンドルナイト

「5本の樹」計画を生かした地域貢献活動

「5本の樹」を、従業員が自ら育て、地域に広げていきます

生物多様性保全に配慮した庭づくり・まちづくり「5本の樹」計画の考え方を地域に広め、自治体、教育機関、市民団体、市民の方々と協働して、みどりのまちづくりに取り組む地域貢献活動を全国各地で推進しています。

神奈川営業本部では、2010年に、行政、教育機関などと連携し、神奈川県秦野市の里山で約100人の従業員が拾った種を育て、発芽した苗をお客様にプレゼントしました。

積和建設東北では、2010年に地域の里山で拾った種から発芽した苗を、東日本大震災被災地支援活動を実施するNPOと連携して、仮設住宅のコミュニティづくりに活用する準備を進めています。

積和建設四国では、讃岐の原風景、讃岐の七富士の景観を守る「堤山」景観保全プロジェクトに参加しています。

また、本社CSR推進委員会・5本の樹WGメンバーが中心となって、地域の里山で拾った種から育てた苗木を、総合住宅研究所に植樹する取り組みも実施しました。

地元自治会、NPOなどと一緒に「堤山」景観保全プロジェクトに参加（積和建設四国）

自分たちで育てた苗木を総合住宅研究所敷地内に植樹しました。

「バードウィーク＆5本の樹フェスティバル」

また、2009年から毎年5月、本社のある梅田スカイビルで「バードウィーク＆5本の樹フェスティバル」を開催しています。ビルに併設する「新・里山」での自然観察会、子どもから大人まで楽しみながら生物多様性について学べる「クイズラリー」、出展NPOによる「ものづくり体験」などを実施する、「5本の樹」計画についての考え方を多くの方に知っていただくイベントです。2011年度は東日本大震災発災を受け、開催中止となりましたが、2012年度は5月に開催予定です。

会場には当社の環境キャラクター「エコぼう」も登場し、子どもたちも大喜び（2010年度）

埼玉県「みどりと川の再生」活動に参加

まちにみどりを増やし、山をよみがえらせ、水に親しめる川をつくるために埼玉県が取り組む「みどりと川の再生」活動に2010年度から参加しています。

（1）みどりの再生

豊かな自然環境を次の世代に引き継ぐため、自動車税の一部と寄付金を財源に「彩の国みどりの基金」を創設して、「森林の保全」「活用身近な緑の保全・創出・活用」「環境に関する意識の醸成」という目的を柱とした施策に活用する。

（2）川の再生

県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国」を目指し、「埼玉の川・愛県債」を発行して、「自然や親水機能の保全・創出」「水辺の魅力創出発信」「水環境の改善（水質・水量）」「川の浄化ムーブメント」という4つの目的を柱とした施策に活用する。

環境保全活動を通じた環境学習を実施

「エコ・ファーストの約束」に基づく3つの環境学習プログラムを準備し、小中学校から一般向けに、「環境学習応援隊」として3校2団体371人に環境学習を実施しました。その他、東松山市きらめき大学からの授業要請など幅広く活動の場を広げることができ、埼玉県の環境保全につながる活動を行ってきました。

2012年3月には、これまでの環境に対する取り組みを高く評価していただき、埼玉県「第13回さいたま環境賞」（事業者部門）を住宅業界として初めて受賞しました。

環境配慮型住宅「グリーンファースト」1棟建築につき2000円を寄付

当社が太陽光発電システムや家庭用燃料電池を組み合わせた環境配慮型住宅「グリーンファースト」を1棟建築するごとに2000円を、緑豊かな埼玉を守るため、「森林の保全整備」「身近な緑の保全・創出」「環境教育」の推進に取り組む埼玉県「彩の国みどりの基金」に寄付しています。2011年度は853棟170万6000円を寄付しました。

年度	棟数	寄付金額
2010	774棟	1,548,000円

植樹、地域産材の活用も推進

また、県民が1人1本を植樹する「県民1人1本植樹運動」にも参加し、「5本の樹」計画を通じてお客様に庭への植樹を積極的に提案させていただき、2011年度は5万2686本をエントリーしました。さらに、木造住宅シャーウッドに埼玉県産材である「秩父檜」を構造材の一部に採用する取り組みや、彩の国リバーサポート制度に参加し、河川の美化活動などの取り組みも実施しています。

年度	植樹本数
2010	43,528本

河川の美化活動も継続して実施しています。

防災意識の啓発

住まいの防災対策には、建物のハード面の充実だけではなく、そこに生活する人々の日常からの備え、防災意識の高揚が大切です。当社では、防災意識啓発のために、当社が保有する生活ノウハウを積極的に情報発信しています。

生活リテラシーブック「住まいと暮らしと防災」の発行

また、生活者にとって有用な情報や、災害に備えて知ってほしい生活ノウハウを一般雑誌スタイルでまとめた生活リテラシーブック「住まいと暮らしの防災」の発行や、一般生活者向けの「防災セミナー」の開催、当社の大型分譲団地で実施される住民主体の防災訓練にも、開発企業として参加し、地域住民に対する防災セミナー開催などを通じて防災意識を啓発しています。

生活リテラシーブック「住まいと暮らしと防災」

缶づめを利用して「美味しく備える防災食」ワークショップを開催

2011年度の取り組み

ハンドブック「いえコロジー 節電＋防災篇」を発行

さらに、2011年は「いえコロジー 節電＋防災篇」を発行し、日本最多の住宅オーナー様をはじめ、住宅展示場やショールームに来場されるお客様とも広く接点の持てる企業として、住まいにおける「万一に備える防災対策」をお伝えしました。

おいしく備える「防災食」ワークショップを開催

また、「防災食」をテーマに親子参加型ワークショップも開催しました。このワークショップでは、「防災食」として多くの家庭で備蓄している「缶づめ」を少しの工夫でおいしく食べることと、被災時を想定して、できるだけ洗い物を減らす、水を節約するなど、被災中に食事をつくる状況を想定して実施したものです。

情報サイト「All About」で研究成果を発信

また、当社総合住宅研究所の研究員が「家庭でできる防災・耐震対策」のテーマで、その研究成果を公開し、一般社会に向けた啓蒙活動を実施しています。

情報サイト「All About」掲載コンテンツ

防災グッズを試してみました【加熱袋】
お鍋ひとつで簡単調理！缶づめでつくる防災食レシピ
防災グッズを試してみました【非常食】
防災グッズを試してみました【簡易消火具】
防災グッズを試してみました【手回し式携帯充電器】
防災グッズを試してみました【水不要のシャンプー】
防災グッズを試してみました【簡易トイレ】
遥かな道のり40km！「帰宅難民」実験-2
遥かな道のり40km！「帰宅難民」実験-1
地震発生！そのときどうする？
グルメも納得！備蓄食料でつくる防災レシピ
ガイドが体験したあの日。阪神・淡路大震災
コストをかけずにできる、防災対策7か条
ガイドが自宅で実践！オススメ地震対策
どのくらい有効？地震に備えた家具転倒対策
防災対策は「わざわざ」やるから続かない
地震で断水！4人家族が必要な水の量は？
どうなる？大地震発生からの48時間（2）
どうなる？大地震発生からの48時間（1）
数秒後に震度5が！？緊急地震速報スタート

災害時における地域との協働

訓練や備蓄で、お客様や地域住民の方々とともに災害に備えています

サステナブル社会を形成するためにも、防災への取り組みは欠かせません。「企業も地域の一員」と考える当社は、地域の皆様と一緒になって災害に備えています。一例として、当社分譲地の「リフレ岬・望海坂（のぞみざか）」では、定期的に各種防災訓練を実施するなどして、住民一人ひとりの防災意識の向上に努めています。

また、静岡工場では、2004年に発生した新潟県中越地震を支援した経験を活かし、防災備蓄を継続しています。従業員だけでなく、地域の皆様にとってもお役に立つものにするために、備蓄品は、食料や水といった生活必需品から復旧用の工具やシャベル、医薬品など多岐にわたってそろえています。

なお、万が一災害が発生した際には、工場を避難所として活用することも想定しています。

自治会と共同で防災訓練を実施（リフレ岬・望海坂）

発災3時間後には、工場に備蓄している水や食料をトラックに積み被災地へ

交通網寸断の中、地震発生3時間後に支援物資の輸送を開始しました

2011年3月に発生した東日本大震災においては、主要交通網が寸断された被災地のお客様や事業所に向け、支援物資の供給を早急に行いました。地震発生3時間後には静岡工場から第一便が出発。その後も順次、現地（岩手北上、仙台、福島、郡山、群馬、水戸）に支援物資を輸送しました。支援物資はお客様や従業員だけでなく、病院や避難所、一般被災者の方々にもお渡ししました。

主な支援物資一覧（10tトラック89台分）

飲料水	348,000ℓ	カセットボンベ	14,800本
食料・主食系	292,000食	カイロ	205,000個
食料・副食系	119,000食	おむつ	45,700枚
衣類・毛布	9,600枚	土のう袋	17,000枚
ブルーシート	12,800枚	バイク	150台
カセットコンロ	3,800台		

2011年8月末時点

「お客様と地域のために」を判断基準に住居提供や仮設トイレの設置も行いました

これまでの災害時に培ってきた経験をもとに、グループ一丸となり「お客様と地域のために」できることを第一に考えました。炊き出しや支援物資受付に使用するテントと仮設トイレの設置、賃貸物件の一部を被災者支援住宅として提供するなど、さまざまな取り組みをいち早く実施しました。

また、お客様の安否確認や支援物資提供で避難所を訪れた際には、「あなたの無事を他の地域や避難所にいらっしゃるご家族・ご親戚にお伝えます」と声をかけ、預かったメッセージを伝えるために何十件も電話をかけ続けるなど、一人ひとりが今何ができるかを考え、自発的に行動しました。

仮設トイレを分譲地内の公園に設置

赤十字病院との協定に基づき、テントを設置

断水が続く地域へ、水とポリタンクをお届け

関連項目

- 東日本大震災復興に向けた積水ハウスグループの取り組み（「サステナビリティレポート2012」PDF：800KB）
- 東日本大震災における、積水ハウスグループの活動についてのご報告（「サステナビリティレポート2011」PDF：1.1MB）
- 「住宅防災」の考え方(P.289)

防犯教育と意識啓発

生活者の犯罪に対する不安感が依然として高い昨今、住まいにおける防犯対策の強化が求められています。当社では、誰もが安心して暮らせる住まいやまちづくりを目指して、防犯仕様やタウンセキュリティーなどの普及を図ると同時に、一般の方に向けた防犯意識の啓発に積極的に取り組んでいます。

体験型施設や情報発信を通じて啓発しています

住まい手の防犯意識を高める啓発活動としては、当社のお客様に限らず広く一般の方々を対象に、「納得工房」（京都府木津川市）や全国の「住まいの夢工場」を活用し、体験を通して楽しみながら学んでいただいています。また、住まいに関するさまざまな角度からの調査・研究成果を、わかりやすくまとめて発信する冊子「view point」でも、第4号「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～を発行。防犯意識に関する実態や泥棒に狙われにくい住まいづくりを紹介しています。さらに、一般の情報WEBサイト「All About」では、当社総合住宅研究所の研究員が「防犯に強い家の工夫」「子どもを守る防犯対策」の2テーマで、その研究成果を公開し、一般社会に向けた意識啓発に努めています。

情報サイト「All About」掲載コンテンツ

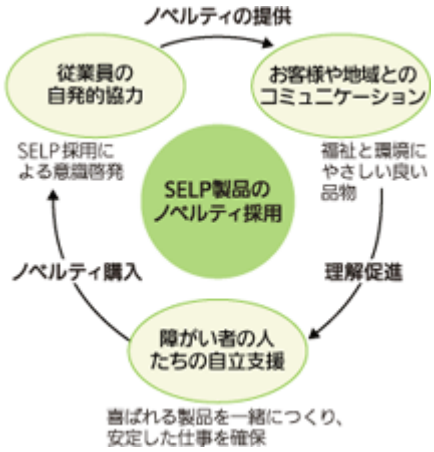
防犯に強い家の工夫

発見！子育てしやすく、防犯にも強いまちはコレだ
「猛犬注意」も今は昔・・・犬に防犯効果はなくなった！？
防犯カメラだけじゃない！泥棒が嫌がるのはこんな街
玄関にも「スマートエントリー」を採り入れる！
1回で2つのドアロックができる玄関錠が登場
留守なのに無施錠・・・！泥棒はこんな「心の隙」を狙う
家づくりには「安全」が先？「安心」が先？
子どもでも確認OK！ロックしたか色でわかる玄関錠
防犯の新常識！泥棒は昼間に活動している！？
傷だらけの実験！これが理想の生垣だ（1）
傷だらけの実験！これが理想の生垣だ（2）
子どもの防犯・不審者から逃げるには何m必要か？
犯罪者が子どもに囁く「8つの誘い文句」
子どもに教えたい、ヘンな人ってどんな人？
紫外線カット！防犯ガラスの知られざる効果
釣りで実践！車上荒らしはこう防ぐ
「家のカギ締めた？」外出先で確認する方法
手抜き厳禁！年末年始旅行前の空き巣対策
実例に学ぶ！泥棒が近づきにくい街づくり
コストをかけずにできる、防犯対策7か条
「ひとりでお留守番」を成功させる4ヶ条
コソ泥はこんなところに目をつける！
え！？「強化ガラス」に防犯効果がない？

セルプ製品の販売協力 、ノベルティ採用

住宅メーカーというあらゆる人々の生活に携わる企業として、また、当社の企業理念の根本哲学である「人間愛」に立脚した企業活動として、NPO法人トゥギャザー（奈良県奈良市）と協働し、SELP（セルプ）製品※を全国統一イベントである「住まいの参観日」（住宅現場見学会）や展示場の来場者にお渡しするノベルティグッズとして採用・購入することで、障がい者の社会参加と自立支援に取り組んでいます。

※SELP（セルプ）製品とは、障がい者が社会福祉施設において、リハビリや職業訓練、社会参加の実現を目的に働き、つくる製品のことです。「SELP」は英語のSelf-Help（自助自立）からつくられた造語です。また、Support（支援）、Employment（就労）、Living（生活）、Participation（社会参加）の頭文字からなる単語ともされています。



2011年度の取り組み：NPOとの協働で、累計18万個以上を採用

2011年度は、東日本大震災で被災した障がい者福祉施設で生産されているセルプ製品をラインナップに加え、2万8452個を採用しました。セルプ製品のこれまでの採用累計は18万個を超えています。

2007年度	31，312個
2008年度	39，738個
2009年度	32，290個
2010年度	29，414個
2011年度	28，452個

一番人気「エコバッグ」

東北地方の障がい者福祉施設で生産されている「バスボム」

木造住宅「シャーウッド」の端材を活用した「鍋しき」と「ストラップ」

社外からの評価

2007年	NPO法人パートナーシップ・サポートセンターと日本財団共催の「第5回パートナーシップ大賞」において「パートナーシップ

障害者週間行事への参画

障害者基本法では毎年12月3日から9日までの1週間を「障害者週間」と定めています。これは障がいや障がいのある方々に対する理解と関心を深めるとともに、障がいのある方の社会参加意欲を高めることを目的としたものです。大阪での障害者週間行事は2011年度で7回目となります。障がい者・市民・経済団体・民間企業・NPOが一体となって開催することで、徐々に定着してきました。積水ハウスグループは、この障害者週間行事の実行委員会事務局を務めています。

2011年度の取り組み:「障害者と社会をつなぐシンポジウム」では、「被災地から、そして関西から。地域、施設、企業の取り組み～私たちにできること」と題したパネルディスカッションを開催

障害者週間行事の一つとしてシンポジウムを開催しています。このシンポジウムは、障がい者の自立と就労、社会参加を目指すことを軸に、行政・NPO・市民が互いに理念を尊重しながら、協働関係について考える場です。

2011年度は、基調講演「被災地の障害者の現状と就労支援」を厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐 関口彰氏にご講演いただきました。その後、「被災地から、そして関西から。地域、施設、企業の取り組み～私たちにできること」としてパネルディスカッションを開催。パネリストの方々にそれぞれの立場から現状と今後の課題などをお話いただき、会場全体でディスカッションを行いました。

シンポジウムには120人の方がご来場

■基調講演「被災地の障害者の現状と就労支援」を

関口 彰氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐）

■パネルディスカッション

＜パネリスト＞
小野寺 美厚氏（NPO法人ネットワークオレンジ 代表理事）
白砂 祐幸氏（株式会社アイエスエフネットハーモニー 常務取締役）
吉川 公二氏（株式会社フェリシモ 広報リーダー）
関原 深氏（株式会社インサイト 代表取締役）

＜コーディネーター＞
早瀬 昇氏（社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事）

多彩な関連行事を開催

このほかに、関連行事として「みんなでつくる共生社会パネル展」をはじめ、障がい者による芸術作品展「かんでんコラボ・アート21」、障がい者の手づくり作品を販売するバザーなどを開催しています。さらに、CSRに積極的に取り組む関西の企業・NPOを中心に、その一環である障がい者の自立と社会参加を支援するための活動を紹介する「障がい者の社会参加を支援する企業展示会」も開催しており、当社も出展しています。

■みんなでつくる共生社会パネル展

関口 彰氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐）

■障害者の社会参加を支援する企業展示会

（企業22社、NPO4団体、合計26の企業・団体が出展） 会期中の来場者：1万9428名

■「かんでんコラボ・アート21」公開展示会

■ふれあいトゥギャザー ～障がい者による手づくり作品展示・販売会～

■とっておきのさをり展

NPO・NGOとの協働

当社は、事業活動はもとより社会貢献活動においても、さまざまなNPO、NGOと協働した取り組みを展開しています。今後も、環境保全やコミュニティづくり、障がい者自立支援などのテーマにNPO、NGOと協働で取り組むとともに、従業員参加型の寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、多くの団体の活動を支援していきます。

環境保全の推進で

「5本の樹」計画の推進にあたっては、NPO「シェアリングアース協会」(東京都東村山市)の藤本和典代表(ナチュラリスト、自然解説者)に監修・アドバイザーとして協力いただいています。造園・植栽に関する社内資格「グリーンエキスパート」を対象とした研修では講師を務めていただき、庭木と生物の関係を図鑑にした「庭木セレクトブック」の発行においても編集協力など、大きなサポートをいただいています。

さらに、社内研修ビデオの監修には 環境NGO「環境市民」(京都府京都市)から、「木材調達ガイドライン」策定・運用にあたっては国際環境NGO「 FoE Japan」(東京都豊島区)からアドバイスをいただくなど、環境保全活動の推進において、さまざまな形でNPO・NGOと協働して取り組んでいます。

関連項目

「5本の樹」計画(P.226)
木材調達ガイドライン(P.220)

「キッズでざいん」の推進で

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすい」という3つの理念を制定し、それに基づく調査研究事業や顕彰事業などを展開しているNPO法人キッズデザイン協議会の運営に協力しています。発足当初から、NPO法人キッズデザイン協議会会長には、当社会長兼CEOの和田勇が就任しています。

関連項目

キッズデザイン協議会への協力(P.472)

社会貢献プログラムの推進で

当社が従業員と共同して取り組む寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」において、「積水ハウスこども基金」と「積水ハウス環境基金」の2つの基金を運営し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPO・NGOなどの活動を支援しています。支援先団体の選考にあたっては「社会福祉法人大阪ボランティア協会」（大阪府大阪市）にアドバイザーとして協力いただいています。

関連項目

「積水ハウスマッチングプログラム」(P.476)

社会起業家育成で

地域と連携を深めること、社会的課題をビジネスで解決していくこと、コミュニティビジネスを応援・育成していくことは、当社にとって関心の高い課題です。NPO「edge（エッジ）」（京都府京都市）が実施するビジネスプランコンペに特別協賛し、“社会起業家”を目指す若者の育成を支援しています。

関連項目

社会起業家を目指す若者の支援—「edge」への協賛(P.473)

障がい者自立支援の取り組みで

障がい者の自立支援にあたっては、NPO「トゥギャザー」（奈良県奈良市）と協働して、取り組みを進めています。NPOのコーディネートにより、障がい者施設のネットワークが企業のニーズに応えています。障がい者がつくったSELP製品の協働企画、障がい者支援イベントなどを実施する中で、従業員の意識向上にも大きな役割を果たしています。

関連項目

障がい者の自立支援(P.466)

キッズデザイン協議会

2006年5月、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出を目的として「キッズデザイン協議会」が発足しました。2007年4月には、業界の垣根を超えて、さまざまな企業・団体・自治体関係諸機関が集い、特定非営利活動法人（内閣府認定NPO）として設立されました。当社は、発足当初から、協力、支援を行うとともに、会長には当社会長兼CEOの和田勇が就任しています。2010年9月現在の会員数は92団体に達しています。

2011年度の取り組み：「調査研究事業」「顕彰事業」「広報事業」に幅広く協力

2011年度は、「キッズデザイン賞」受賞作品を展示する「キッズデザイン展」開催や、「こどもOS ※研究会」リーダー企業として冊子「こどもOSランゲージ」の発刊、報告会開催などにも協力しました。また、顕彰事業「キッズデザイン賞」にも第1回から継続して参加し、これまでに多数の「キッズデザイン」製品・サービスを開発しています。2011年度は子どもの安全や成長に配慮した積水ハウスの取り組みのうち7項目が「キッズデザイン賞」を受賞しました。

さらに、子どもの安全・安心のための「キッズデザインガイドライン」策定に向け設置された「ガイドライン部会」にも積極的に参画しています。

※「こどもOS」とは、子ども目線や子どもゴコロでものごとを見聞きし、感じることによってデザインの創造性を引き出す行為のこと。子どもが本来持っている能力（豊かな感受性や想像力、直感力など）ととらえ、コンピュータの基本 ソフトウェア（OS）になぞらえて命名。

関連項目

NPO法人キッズデザイン協議会 ホームページ
キッズでざいん(P.326)

社会起業家をめざす若者の支援—「edge」への協賛

NPO・NGOや地域と連携を深めること、社会的課題をビジネスで解決していくこと、コミュニティビジネスを応援・育成していくこと。これらはCSRを推進するにあたって重要なテーマであり、当社にとっても関心の高い課題です。

当社は、2008年度から、NPO「edge（エッジ）」（代表理事：ダイバーシティ研究所 田村太郎氏）が実施するビジネスプランコンペに特別協賛という形で参加。応募されたプランの選考・評価などを担っています。

社会的課題の解決に次世代の社会起業家を目指す若者の育成を支援

「edge」は2004年に発足。社会が抱えるさまざまな課題を、ビジネスの手法を使って解決する“社会起業家”を支援するNPOです。2011年度で8回目を迎えるビジネスプランコンペは、若者たちが社会課題の解決を目指して立案した事業プランを、先輩の社会起業家がメンター（助言者）となってサポートし、選考・評価を繰り返すもの。実際に起業できるプランに磨き上げていくブラッシュアップ型のコンペで、これまでに多くの社会起業のチャレンジを応援しており、edge発の多数の社会起業家が誕生しています。

関連項目

edgeホームページ

西山夘三記念すまい・まちづくり文庫～住文化の継承と発展への協力

当社は、建築学者で京都大学名誉教授でもあった 西山夘三氏が、生涯にわたって収集・創作した研究資料 約10万点を保管するNPO「西山夘三記念 すまい・まちづくり文庫」（京都府木津川市、以下「西山文庫」）に、 総合住宅研究所の一画を提供し、活動を支援しています。2011年度は毎年開催している「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催に協力したほか、西山夘三氏生誕100周年記念事業として開催された「昭和のすまい展」「記念シンポジウム」にも協力しました。

住まいや生活、まちづくりに関する研究を支援

わが国の大学では、優秀な研究者による研究資料（図書、図録、図面、写真、メモ等）は、当該研究者が研究室を引退すると、大学図書館や学部学科はおろか、当該研究室でさえ、それらを継承し、活用するという仕組みが十分とはいえず、そのため、その時代でしか入手することができない一級資料や原資料などは、世代交代によって大量に失われているのが現実です。とりわけ住まいや生活に関する資料は、それらが建築系学問としては未整備であった時代、そしてわが国が戦後の混乱の中、一から再生していった時代にあって、西山氏は自らの足で全国津々浦々、あらゆる階層の人々の暮らしを取材し、膨大なスケッチや写真に残してこられました。こうした社会的に貴重な文化的財産である西山氏による研究・創作資料約10万点を後世に残し、その精神を受け継ぎ次代の研究者に提供し、育てるということが「西山文庫」の使命であり、当社もそこに共感して物心両面での支援を当初から行っています。

当社総合住宅研究所内に設置
「西山夘三記念 すまい・まちづくり文庫」

市民参加型フォーラム「すまい・まちづくりフォーラム関西21」開催に協力

2002年から開催している一般公開の「すまい・まちづくりフォーラム関西21」への協賛もその一つで、2011年度までに28回、本社のある梅田スカイビルや積水ハウス総合住宅研究所などで開催しています。「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催趣旨は住環境にかかわる今日的な話題や歴史的・文化的意味などについて検証して、21世紀の住まい・まちへ持続的発展につながる多彩な情報を発信して住文化の発展に貢献することです。そしてフォーラムを通して専門化した各セクター間の調和を目指すとともに、市民と専門家、ジュニア世代とシニア世代、公共と民間、メーカーとユーザー、都市とコミュニティといった新たな住まい・まちづくりの関係性を構築したいと願っています。

安全・安心なまちづくり、まちの再生、持続可能なまちづくりの実現をテーマに、市民参加型のフォーラムは、毎回その道のトップランナー諸氏による講演ということもあって、講演後の意見交流では講師と参加者の間で活発な討論となり、住まい・まちづくり文化の向上に一石を投じてきました。

2011年春のフォーラム 会場風景

「すまい・まちづくりフォーラム関西21」開催テーマ

年度	期	テーマ	講師
2008年	秋	いまジェーン・ジェイコブスを語る ～サスティナブルなまちづくりの未来～	講師：窪田亜矢（東京大学工学部准教授）
	春	建築行為の可能性 ～建築家が語る、街、人、建築～ （納得工房すまい塾公開講座共同企画）	講師：遠藤秀平（建築家、神戸大学大学院教授）
2009年	秋	京都市の新景観行政 ～現場からのレポート～	講師：寺田敏紀（京都市景観創生監） コーディネーター：中林浩（神戸松蔭女子学院大学教授）
	春	まちづくりと地域づくりの新潮流 ～環境共生とコミュニティ形成の視点から～	講師：松永安光（近代建築研究所代表取締役）
2010年	秋	芦屋市の景観行政	講師：山中健（芦屋市長） コメンテーター：安本典夫 コーディネーター：武山清明
	春	歴史とエコロジーからのまちづくり ～日伊の比較から～	講師：陣内秀信（法政大学教授）
		大阪のまちづくり ～歴史を読み解き、歴史を活かす～	講師：谷直樹（大阪市立大学教授）
2011年	春	アジアの都市とアジアンアーバニズム	講師：出口 敦氏（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

西山夘三氏生誕100周年記念事業開催に協力

2011年9月には、当社本社のある梅田スカイビルで、西山夘三氏生誕100周年記念事業「記念シンポジウム」「昭和の住まい展」の開催に協力しました。

記念シンポジウムは、「住まい・まちづくりの展望ー西山夘三の視点」をテーマに、藤本昌也氏（建築家・現代計画研究所所長、日本建築士会連合会会長）、小林秀樹氏（千葉大学教授・住宅建築学）、中川理氏（京都工芸繊維大学教授・近代建築史）の3人の講師により開催されました。

「昭和の住まい展」は、100枚を超すパネルや設計図面、著作などを展示し、多くの方にご覧いただくことができました。

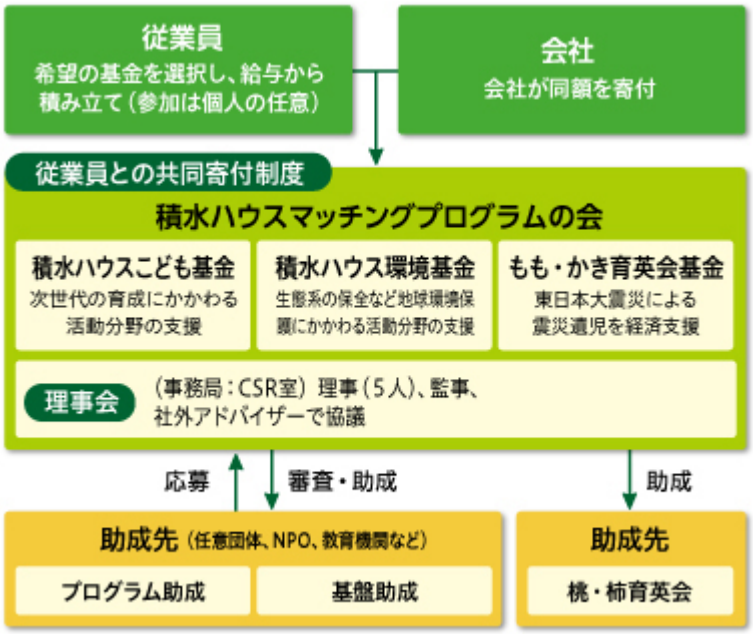
「昭和の住まい展」多くの方にご覧いただくことができました。

従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

当社は、従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」（会員数約2200人）を2006年度から開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。このプログラムは、従業員が給与から、希望する金額（1口100円）を積み立て、それに当社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「積水ハウスこども基金」と「積水ハウス環境基金」の2つの基金があり、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。

2011年度は、こども基金15団体（プログラム助成7団体・基盤助成8団体）に863万円、環境基金14団体（プログラム助成8団体・基盤助成6団体）に703万円、合計29団体1566万円の助成を実施しました。また、東日本大震災による震災遺児を経済的に支援する「桃・柿育英会」（実行委員長：建築家 安藤忠雄氏）の趣旨に賛同し、3つ目の基金として「もも・かき育英会基金」を設置し、1回目として750万円を寄付しました。「もも・かき育英会基金」は、震災遺児を10年間にわたり1億円の経済支援を予定しています。

「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



団体に対する基礎的支援「基盤助成」も実施

助成には、申請があった個々のプログラムに対して助成する「プログラム助成」と、団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員拡大などの取り組みに助成する「基盤助成」の2種類を実施いたします。「基盤助成」は、資金使途に制約が少なく、団体の基盤強化に幅広く活用できることから、これまでに基盤助成を実施した団体からも好評です。

2011年度 助成団体

プログラム助成（こども基金）・・・団体からの申請プログラムに助成

団体名・プログラム名	助成金額
NPO法人 ADRA Japan ネパール口唇口蓋裂医療チーム派遣事業（CLPP）	140万円
NPO法人 アレルギー支援ネットワーク 東海・東南海・南海地震に備える「アレルギー児の命と絆をむすぶ」事業	140万円
NPO法人 国境なき医師団日本 栄養失調児治療プログラム／はしか予防接種	100万円
NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス 「小児がんの子どもと家族を笑顔にするための活動の研究と実施」	100万円
NPO法人 難民を助ける会 ミャンマー（ビルマ）の貧困層の子どもたちと障がい児の通学支援	100万円
NPO法人 日本グッド・トイ委員会 家具、食器、玩具などの子ども関連の木製品で、赤ちゃんから始める生涯木育の推進「森のめぐみの子ども博」の開催	100万円
にほんごサポートひまわり会 外国にルーツを持つ子どもを地域で支える「宿題教室」	28万円

NPO法人 アレルギー支援ネットワーク 理事 栗木成治氏

東海、東南海、南海地震（三連動地震）に備える「アレルギー児の命と絆を結ぶ事業」として、三連動地震に備える「アレルギーサミット」開催と、災害時、アレルギー児とわかる「アレルギーっ子リング」の製作、普及に取り組みました。

初めて開催した「アレルギーサミット」により、四国から関東地域など災害に備える活動が各地で始まり、互いに助け合う機運が強まっています。そして、新たに製作した「アレルギーっ子リング」は、災害発生時、アレルギー児にとって支えの「絆」になります。「アレルギーっ子リング」が医師との連携の下、普及が進み、千人を超える大きな「絆」の輪へと広がっています。

プログラム助成（環境基金）・・・団体からの申請プログラムに助成

団体名・プログラム名（プログラム概要）	助成金額
大阪府立園芸高等学校 蝶の飛ぶ街づくりを推進する活動	306，390円
かしま環境ネットワーク かしまみつばちプロジェクト	20万円
NPO法人 グラウンドワーク三島 ふるさとの川と森を守れ！ 松毛川生きた森の情報館	100万円
NPO法人 珊瑚舎スコーレ 子どもがんまりーむかしうちなーの知恵体験プロジェクト	30万円
NPO法人 自然環境復元協会 「一坪田んぼ」による校庭緑化の多面的活用	42万円
NPO法人 白神山地を守る会 国際森林年を盛り上げる低炭素社会実現の為の事業	60万円
NPO法人 生態工房 ニホンイシガメが棲む水辺環境の整備と回復	100万円
NPO法人 日本国際ボランティアセンター 「生態系に配慮した農業による生計改善」プログラム	200万円

NPO法人 白神山地を守る会 代表 永井雄人氏

国連が定めた「国際森林年」の2011年、2回目となる「いだわしいシンポジウム」を開催し、「（財）地球環境産業技術研究機構副理事長の茅 陽一氏をお招きし「低炭素社会への道」と題して講演していただきました。シンポジウム参加者は、地球環境問題解決には、世界の人間の価値観の転換と、具体的なアクションが必要だということが伝わったと思います。また、夏に実施した白神山地の奥山での植樹祭には400名の方々にご参加いただきました。

「いだわしいシンポジウム」「植樹祭」をはじめとする取り組みを通じて、白神山地から、持続可能な社会づくりに、一人でも多くの人が参画できるよう、意識啓発、きっかけづくりに取り組んでいきたいと考えます。

基盤助成・・・団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員の拡大など今後の発展に期待して助成（原則20万円を助成）

こども基金	環境基金
NPO法人 こどもと文化協議会・プラッツ	NPO法人 棚田LOVER‘s
NPO法人 子ども広場あそべこどもたち	筑後川まるごと博物館運営委員会
NPO法人 女性エンパワーメントセンター福岡	西淀自然文化協会
NPO法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西	一般社団法人 日本気象予報士会関西支部
NPO法人 スーダン障害者教育支援の会	東山動物園くらぶ
NPO法人 日本ホスピタル・クラウン協会	NPO法人 フォレストぐんま21
NPO法人 MAMIE	
NPO法人 Mikoねっと	

これまでの助成実績（プログラム助成・基盤助成の合計金額）

	こども		環境		合計	
	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数
2007年度	262万円	4	235万円	4	497万円	8
2008年度	543万円	7	339万円	5	882万円	12
2009年度	872万円	7	760万円	8	1,632万円	15
2010年度	875万円	14	908万円	16	1,873万円	30
2011年度	863万円	15	703万円	14	1566万円	29

社外からの評価

2010年	第4回キッズデザイン賞（ソーシャルキッズサポート部門）受賞 （主催：NPO法人キッズデザイン協議会）

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

1996年、六甲アイランド（神戸市東灘区）と深いかかわりのある当社とP＆G社が共同で、神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立、NPOなど多くの団体の活動を支援しています。

2011年度は44件の活動に合計2200万円を助成し、これまでの助成金額累計は3億4768万円となりました。また、これまでの活動が評価され、2011年12月、P＆G社と共に神戸市から表彰されました。

基金の仕組み

2011年度助成事業

＜国際コミュニティづくり事業＞
在日外国人や新たに来日した外国人に対する日常生活ガイダンス活動、地域住民との交流活動、情報交換活動等。

団体名	事業内容
東灘アートマンス実行委員会	東灘アートマンス
神戸市立六甲アイランド高等学校	国際性と地域性を育む教育活動の実践
RICふれあい会館	「外国人による講演会2011」＆「住民トーク」
RICコミュニティライブラリー	RICコミュニティライブラリー（地域図書館）の運営・管理
こうべ海の盆踊り実行委員会	こうべ海の盆踊り2011「盆踊りコンテスト」・「国際交流ブース」・「盆踊り練習会」
神戸ビエンナーレ組織委員会	高架下アートプロジェクト
東灘市民防水大会実行委員会	東灘市民放水大会
神戸市立小磯記念美術館	RICアートカプセル2011
テルネット・フォーラム2011実行委員会	テルネット・フォーラム2011

六甲アイランドCITY自治会	第24回RICサマーイブニングカーニバル
NPO法人神戸定住外国人支援センター	中国残留邦人帰国高齢者等のコミュニティ支援事業
被災地学生交流事業会	被災地学生交流事業 in KOBE
六甲アイランドを美しい街にする会	六甲アイランドチューリップ祭と関連事業
西区婦人連合会	国際交流のタベ なでしこの盆
あじさいコンサート実行委員会	心の復興 あじさいコンサート～未来へ～
復興支援コンサート実行委員会	メモリアルコンサート“竹下景子 詩の朗読と音楽のタベ”ほか
Community House Information Center（CHIC）	コミュニティ ハウス アンド インフォメーションセンター
NPO法人多言語センターFACIL	医療通訳モデル事業を通じた多文化共生コミュニティ創生プロジェクト
神戸東おやこ劇場	のびのびわくわく・楽しいことしよう会～神戸東おやこまつりの開催・地域講演・講習会
アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性への生活情報発信と相談・フィリピンコミュニティ調査
W・Sひょうご	外国人DV被害者への情報提供・支援活動
ひょうごラテンコミュニティ	南米系住民の自助組織の経済的自立に向けた基盤作りと記念セミナー事業
NGO神戸外国人救援ネット	外国人のための総合相談事業および問題解決のための援助とフォローアップ活動
NPO関西ブラジル人コミュニティCBK	ラテンアメリカネットワーク作り
RIC音楽工房	第17回緑の風コンサート
NPO法人実用日本語教育推進協会	日本語を核とした新しい形の国際交流サロン事業
多文化と共生社会を育むワークショップ	みんなでつくる文化と共生社会（We Are the World partⅡ）
一般財団法人ダイバーシティ研究所	地域社会におけるダイバーシティ推進フォーラム in 神戸
スイング・ジャズ・クルーズ実行委員会	スイング・ジャズ・クルーズ in 神戸ハーバーランド
神戸市東灘防火安全協会	東灘救急フェア2011
NPO法人国際教育文化交流協会	世界の文化と民族音楽「We Are the World」
NPO法人Co. to. hana	シンサイミライノハナPROJECT2012
被災地市民交流会	被災地市民交流事業
NPO法人総合文化推進機構	KOBE ALOHA BREEZE
六甲アイランド地域振興会 ～手作りこいのぼりプロジェクト	六甲アイランドコイノボリ手染め大会

六甲アイランド地域振興会 ～ウェルカムフェスティバルプロジェクト	六甲アイランドウェルカムフェスティバル2011
六甲アイランド地域振興会 ～六甲アイランド能プロジェクト	六甲アイランド能2011～能・狂言の夕べ
六甲アイランド地域振興会 ～六甲アイランドハロウィンプロジェクト	六甲アイランドハロウィンフェスティバル＆収穫祭
六甲アイランド地域振興会 ～六甲アイランド光の街プロジェクト	六甲アイランド光の街プロジェクト

＜文化的な都市環境づくり事業＞
私有地（個人・法人所有を問わない）でありながら、公共の利用に提供しているスペース等の環境整備・充実のための事業（ベンチ、街灯、花壇の設置、植樹等）。

団体名	事業内容
団体名	事業内容
神戸国際大学	桜プロムナードづくり

＜広報・調査・研究活動＞
国際的な新しいコミュニティづくりや文化的な都市環境づくりに関する広報、講演、シンポジウム開催および調査、研究活動等。

団体名	事業内容
六甲アイランドまちづくり協議会	六甲アイランドの街路に愛称をつける
神戸山手大学 宇治川ホタル研究部	宇治川のゲンジボタル観察会および清掃活動など
ミックスルーツ関西	多文化社会対話促進プロジェクト VERSE

社外からの評価

2011年12月、基金設立以来の15年間で、地域団体、NPO、ボランティア団体が実施する413件の活動に助成を実施し、国際的・文化的なコミュニティづくりを支援してきた実績が評価され、神戸市より感謝状を授与されました。

感　謝

積水ハウス株式会社 様

貴社は「神戸まちづくり六甲アイランド基金」を通じて 国際的かつ文化的コミュニティーづくりに資する地域活動を助成し 六甲アイランドのまちづくりに多大なる貢献をされました
ここに 深く感謝の意を表します

平成23年12月21日

神戸市長 矢田立郎

これまでの取り組み

2010年度助成団体

災害義援金

災害発生時には多くの人々の協力が必要です。当社は、国内外で災害が発生した際、コーポレート・コミュニケーション部CSR室が中心となり、当社グループに災害義援金への協力を呼びかけています。

2011年度は、東日本大震災義援金など8545万円を寄付

2011年度は、「ニュージーランド地震」「東日本大震災」「台風12号および15号」に関して募金を呼びかけ、当社グループの事業所、関係会社および協力工事店から総額8545万6322円が寄せられました。「東日本大震災」義援金は、従業員のみならずOB・OGサイト「Net－OB・OGクラブ」を通じて、OB・OGにも義援金を呼びかけました。これらの義援金は、「必要なときに、必要な支援を、必要な方々に、迅速に行うこと」を方針として、公的団体、活動団体に寄付を実施しています。

義援金名	金額（単位：円）
「ニュージーランド地震」義援金	1,981,666
「東日本大震災」義援金	82,989,208
「台風12号および15号」義援金	3,174,267
総額	88,145,141

これまでの取り組み

年度	義援金名	金額（単位：円）	総額
2006年度	「ジャワ島中部地震」被災者義援金	2,734,093	2,734,093
2007年度	「能登半島地震」被災者義援金	5,338,834	11,312,132
	「新潟県中越沖地震」被災者義援金	5,973,298	
2008年度	「ミャンマー・サイクロン」義援金	3,229,911	6,535,111
	「中国大地震」義援金	3,305,200	
2009年度	「サモア地震・津波災害」義援金	1,032,463	5,844,105
	「スマトラ島沖地震」義援金	1,064,498	
	「ハイチ地震」義援金	3,747,144	
2010年度	「チリ地震」義援金	2,065,041	5,516,199
	中国青海省地震」義援金	1,504,527	
	「宮崎県口蹄疫」被害者義援金	1,946,631	

チャリティフリーマーケットの実施

フリーマーケット、チャリティバザーの売上金を、社会的活動を担うNPOなどの団体に寄付しています

全国の事業所で、チャリティフリーマーケット、チャリティバザーなどを実施し、売上金を、社会的活動を担うNPOなどの活動団体に寄付しています。

本社では1994年から、(社福)ノーマライゼーション協会(大阪市東淀川区)を後援するノーマライゼーションクラブ主催のフリーマーケットに参加しています。当社従業員有志が、大阪を中心とした近隣事業所に呼びかけ、家庭で眠っている物を持ち寄って出店し、その売上金を(社福)ノーマライゼーション協会に寄付して高齢者・障がい者の自立支援に役立てていただいています。2011年度は18万2268円を同協会に寄付しました。

売上金の一部を寄付する自動販売機を設置する事業所も増えており、さまざまな形での寄付を通じて、社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。

ノーマライゼーション協会主催のフリーマーケットは大盛況。多くの方に出展品をご購入いただきました。

こどもの日チャリティイベントへの協力

2004年から（財）日本ユニセフ協会大阪支部と協働で、チャリティイベント「困難に直面している世界のこどもを救おう！」を開催しています。「海外旅行で余った紙幣やコイン、書き損じのハガキなど机やタンスで眠っているものを役立てられないか？」という発想から生まれた、毎年5月「こどもの日」に開催するチャリティ活動です。イベント事務局をグループ会社の積水ハウス梅田オペレーションが務めています。

2011年度は、32万円を寄付

全国のグループ会社の従業員から外国の紙幣・コイン、書き損じハガキや未使用切手を集め、2011年度は32万5825円を（財）日本ユニセフ協会に寄付し、東日本大震災被災地支援活動に活用していただきました。

集まった外国の通貨、未使用切手、ハガキなど（財）日本ユニセフ協会へ寄贈

東北の障がい者福祉施設の製品を販売するブースが出店

イベント当日、会場でも義援金を募集

各地へ広がる収集ボランティア

ペットボトルキャップやプルタブ・アルミ缶などを収集し、ワクチンや車いすに

「誰もができる社会貢献」を合言葉に、ペットボトルキャップやプルタブ・アルミ缶、使用済み切手などを収集して各種団体に寄贈するボランティア活動が全国に広がっています。

ペットボトルキャップは、主にNPO法人 エコキャップ推進協会（神奈川県横浜市）に寄贈。同協会が再資源化によって得た売却益をNPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）（東京都千代田区）に寄付し、発展途上国の子どもたちにワクチンを贈るために使われています。

使用済み切手やプリペイドカードは、NPO法人シャプラニールに寄贈し、南アジアでの支援活動に生かして頂いています。

現在では、全国各地の事業所や社外にも協力の輪が広がり、収集量が増加しています。今後も力を合わせて取り組みを継続し、社会貢献に努めていきます。

地域イベントの支援

当社は地域の一員として、地域イベントの開催および参加・協力をしています。

山梨支店では、青少年の健全育成を目的とした少年柔道大会を開催、堺支店ではグラウンドゴルフ協会とともにグラウンドゴルフ大会を開催、大分支店では大分県手をつなぐ育成会が実施するフライングディスク大会に協力するなど、地域のスポーツ振興に協力しました。また、本社のある梅田スカイビルで毎年開催している「盆踊り大会」でも、地元自治会、周辺地域の方々との友好を深めるとともに、会場提供だけでなく、企画、設営、運営に協力するなど、2010年度も全国の事業所で多くの従業員が地域のイベントに参加・支援しました。

今後も当社は、スポーツ振興や催事の支援を通じて地域とのつながりを大切にしていきます。

多彩な国際交流イベントの開催

グループ会社の積水ハウス梅田オペレーション(株)は、各国の領事館と協働し、外国文化を紹介するさまざまなイベントを大阪市の梅田スカイビルで開催し、「ふれあい」と「共生」をテーマに国際交流を図っています。

日本最大級のメキシコの祭り「フィエスタ・メヒカナ(メキシコ祭)」

メキシコ大使館との共催による「フィエスタ・メヒカナ(メキシコ祭)」は、西日本各地からラテンファンが訪れる日本最大級のメキシコの祭りとして、国際集客都市大阪での代表的なイベントです。15回目となる2011年度は9月17日～19日に開催されました。会場では、自国の言葉で話す人々の交流が盛んで、国際交流の手助けができることに、参加した従業員は喜びを感じています。なお、積水ハウス梅田オペレーション(株)は、当社会長兼CEOである和田勇が名誉領事を務める在大阪メキシコ合衆国名誉領事館の業務窓口として、国際交流と相互理解の架け橋として協力しています。

「フィエスタ・メヒカナ(メキシコ祭)」
2011年度で15回目の開催となりました

世界最大級のクリスマスツリーを展示「ドイツ・クリスマスマーケット」

世界でもクリスマスシーズンを最も大切に過ごす風習のあるドイツ。ドイツ連邦共和国総領事館と協働した「ドイツ・クリスマスマーケット2011」を11月18日～12月25日に開催しました。期間中会場はドイツのマーケットそのもので、特にライトアップされた夜になるとシンボルの世界最大級のクリスマスツリーを見ようという多くの人で賑わいます。木製の小屋「ヒュッテ」をはじめ、ドイツから資材を運んで本場さながらにつくり上げる会場では、プレゼントにもぴったりなドイツグルメや木工芸品などを販売。115年以上の歴史を誇るアンティークのメリーゴーランドやドイツのサンタクロース「ニコラウス」も人気を集め、大阪の冬の一大イベントとして定着しています。

「ドイツ・クリスマスマーケット2011」
世界最大級のクリスマスツリーをはじめ、多数のイルミネーションが素敵なクリスマスを演出します

文化財の保護

2011年9月、旧ホテルフジタ京都（京都市）の建て替え工事に伴い、壁画「都市流動」を、猪熊弦一郎現代美術館（香川県丸亀市）に寄贈しました。

壁画「都市流動」は、同ホテル開業以来、1階ロビーを飾っていましたが、1982年に実施された改修工事で壁画の前に壁が作られて以降、行方がわからなくなっていた作品です。解体工事前にその存在が判明したため、解体工事実施時に取り外し、同美術館に寄贈しました。

撮影：高橋章氏
壁画《都市流動》1969年
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館「祝20祭」での展示風景

関連項目

猪熊弦一郎現代美術館ホームページ

社会貢献活動社長表彰

社会貢献意識の高い企業文化を醸成するために、2006年度より、従業員の社会貢献活動を社長表彰として顕彰し、社内に周知しています

2011年度は、2件に感謝状を授与

2011年度には5件の応募があり、本業である住まいづくりに関するノウハウをいかした環境教育活動、地域住民と従業員が連携したボランティア活動、創意と工夫のある地域に密着した地域イベント支援などが集まりました。社長表彰の該当事例はありませんでしたが、2件の活動に感謝状を贈りました。

これらの活動は社内誌や社内ホームページなどで従業員に広く紹介し、社会貢献意識の一層の高揚を図っています。

稲作「shm米son」活動
オーナー様、従業員が一緒に米づくり。収穫したお米は、埼玉県に避難してこられている東日本大震災被災者の方々にお届けしました。（埼玉西シャーメゾン支店）

「シフォンの丘 緑育のまち」まちづくり活動
まちづくりと共に設置された「緑育プラザ」を核に、さまざまなコミュニティイベントを支援（シフォンの丘プロジェクト）

これまでの取り組み（過去の社長表彰受賞活動）

年度（応募総数）	活動名	事業所名
2006年度 （応募総数：6件）	福知山支店エリアにおける、ボランティア活動・地域貢献活動	福知山支店
2007年度 （応募総数：12件）	地域清掃活動	静岡工場
2008年度 （応募総数：7件）	静岡「住まいの夢工場」 教育貢献活動	浜松支店、静岡工場
	「夢工場杯」小学生サッカー大会	関東工場
	納得工房における「すまい塾 こだわり講座」の運営	納得工房、技術研究所、大阪設計部
2009年度 （応募総数：8件）	和歌山県が推進する企業の森（積水ハウスの森）における森林保全活動	和歌山支店
	「Dr. フォレストからの手紙」	環境推進部、設計部、 グリーンテクノ積和関西他
	親子で楽しむ自然体験「田植え、稲刈り、『5本の樹』セミナー、隣人祭り」	長崎支店
2010年度 （応募総数：7件）	ジョイセフ「想い出のランドセル募金」	北関東営業本部（50周年推進委員会、次世代行動委員会）
	埼玉県と一体となった環境保全活動	埼玉営業本部（環境取組推進グループ「グリーン委員会」）
	巣箱作り教室	いわき支店 巣箱作りプロジェクト
	CSR活動を通じ、社内活性と人材育成	積和建設四国(株)